NO5

# 遠賀川流域通信

発行日　2004年１１月１日　発行責任者　NPO法人　遠賀川流域住民の会　理事長　窪山邦彦

## 「第10回　I LOVE遠賀川流域住民交流会 in いなつき」

**田川から船出したI LOVE遠賀川流域住民交流会は、下流域の芦屋町や中流域の直方市、飯塚市、上流の嘉穂町などを経て今年で十回目（十年）の節目の開催地は、「嘉穂郡稲築町」で、九月二十六日に開催しました。国土交通省遠賀川河川事務所所長の田井中靖久氏に【すばらしい遠賀川にするために】と題して基調講演を頂き、引きつづいて【川船と遠賀川】を香月靖晴氏、【ホタルからのメッセージ】を中尾明子氏に講演頂きました。また、美しい音色でヨシ笛演奏、大型紙しばい「カッパ伝説・黒田まさめずもう」を地元の皆さんに披露して頂きました。**

### 基調講演
### 「すばらしい遠賀川にするために」田井中靖久氏
（国土交通省遠賀川河川事務所所長）

ご講演いただきました田井中靖久遠賀川河川事務所長

基調講演は三部構成で、世界の水資源、水害、遠賀川からなり、内容は次のとおりです。

【世界の水資源】では地球上で海水が九十七・五％、真水が二・五％、（九万立方平方キロ）で、一人が一日に使う水量として南アフリカは二百四十七リッ、ヨーロッパは二百八十リッ、アメリカは四百五十二リッ、日本は三百三十四リッでアジアやアフリカの多くは五十から二十リッで生活し、安全な水は少なく衛生面で問題になっています。また、人口の増加や密林の破壊による温暖化で雨の降り方に異変が起きており、生態系にも影響を与えています。

【水害】について日本は地形からみて湿った空気と山があればどこの地域でも大雨が起こりやすい状況にあります。

先日は新潟や福島県の集中豪雨で、降り始めから四百二十一ミリ、福井では一時間に八ミリメートルを記録、平均雨量が一日で達成するなど地球温暖化の影響が出ているのかもしれません。

【遠賀川】の水質状況は全国一級河川百六十五のうち百五十四とあまりよくありません。特に上流域（飯塚・田川）が悪く、これは人口密度が高い上、水利用が盛んに行われているからです。

汚染の原因である生活排水が六十三％を占めており、そのうち四割が台所からであり、これをいかに減らすかが今後の課題と思います。

国土交通省が第二期水環境緊急行動計画の対象河川として遠賀川が「遠賀川水系清流ルネサンスII」として平成二十四年度まで河川環境整備が開始されます。施策内容は、ハード面で汚水施設整備、ソフト面で合併浄化槽の管理や住民意識啓発などがあり、遠賀川に清流を取り戻す重要な事業であります。

十月は河川美化月間です。飯塚市や芦屋町など遠賀川は流域の多くの方々が清掃活動や多種多様なイベントで川に親しめる環境づくりを目指されています。

遠賀川を再生するには住民の方々と行政が手を取り合って行動を起こしていくが大事であると思います。

wood mountainによるギターを伴奏にヨシ笛とコカリナの吹奏

大型紙しばい「黒田まさめずもう」の熱演

---

カッパ伝説の「黒田まさめずもう」は子どもがカッパと相撲をとる話で、あいさつをさせてカッパの皿の水を落とせば力が弱くなることを知り、子どもが知恵を出してカッパから勝ったという稲築町の民話。読みきかせサークル「にゃーご」のみなさんが大型紙しばいで披露して頂きました。

ヨシ笛演奏、紙しばいは今回の交流会を盛り上げて頂き、大変有難うございました。

最後に大会宣言文が高々と読み上げられ、国土交通省が第二期水環境緊急行動計画として「遠賀川水系清流ルネサンスII地域協議会」が設立され、住民と行政がパートナーシップをとり、昔のようなきれいな遠賀川を取り戻し未来を担う子ども達に引き継いでいくことを宣言しました。

参加者は約百人で、交流会終了後、稲築町社会福祉センターで情報交換会を盛大に行いました。

開催地であります、稲築町のいなつき環境を考える会の荒木さん、いなつき河童共和国の野見山さん、稲築町役場人権環境課の高橋さん、周到な準備から当日のお世話まで大変お疲れ様でした。

稲築町は国道二百十一号線と平行して遠賀川を南北に縦断し町名の如く遠賀川の恩恵を受け黄金の稲穂が田園を覆い尽くす風景がよく似合う町です。また太宰府政庁と宇佐を結ぶ官道が貫き、町内に嘉摩郡（かまのこおり）と呼ばれる役所が置かれ都から役人が立ち寄ったとされて、その嘉摩郡に筑前国守（地方長官）として赴任したのが、万葉集の代表的な歌人の一人、山上憶良です。町内のあちこちに代表作が石碑に刻まれた歴史的な町でもあります。

# 川船と遠賀川

**香月　靖晴氏**

**（稲築町）**

地元稲築町出身の香月靖晴氏から「川船と遠賀川」と題して講演を頂きました。

千百三十年（大治五年）に稲築町の上流の碓井町から遠賀川を下り芦屋を経て奈良の東大寺まで年貢を送った記録があるそうです。その運送費用の費目の中に「平駄賃料」があり、平駄は底が平たい川舟のことで遠賀川の水運として使われました。

江戸時代は年貢運送が中心でした。千七百六十二年（宝暦十二年）には遠賀堀川が完成し、以後川舟は中間の唐戸をくぐり堀川を通って洞海湾に出て若松に向かうようになりました。

江戸時代後期になると運送品目も多様になり、ハゼろう菜種・大豆などのほか石炭も多くなりました。帰りも空舟では帰らず、綿・畳表・そうめん・たばこ・醤油・陶磁器などを運びました。

明治時代になると筑豊炭田の発展の伴い、川舟数は千九百年（明治三十三年）の最盛期で六千五百四十四艘まで増加しましたが、その後、鉄道が筑豊一帯に網の目のように張りめぐらされ、水運は次第に消滅していきました。

嘉穂郡では大正時代になると川舟の姿はほとんど見なくなりました。

# ホタルからのメッセージ

**中尾　明子氏**

**（方城町）**

田川郡方城町の中尾明子氏から「ホタルからのメッセージ」と題して、親子で五年間観察したほたるの生態記録を報告して頂きました。

中尾さん親子は毎晩、温度と天気を記録し、ホタルの状況を観察しました。

ホタルは六月に産卵し、約九か月間カワニナをえさに水中で過ごした後、三月下旬から四月中旬の雨の日を見計らい、強い光を放ちながら、コンクリートを這い上がり、雑木林などの土をめがけて上陸するそうです。なぜ土がある所がわかるのか不思議です。今年は四月下旬から舞いはじめました。

オスはパートナーを見つけるために飛んでるが、メスは葉などに止まっているそうです。オスとメスの見分け方はホタルを腹ばいにして、オスは上下に二つ光るところがあるが、メスは一つだそうです。

【ホタルが成長する四つの条件】は、

①カワニナが豊富（ホタル百匹で一万個必要）

②草木がある

③夜、真っ暗になる（光ってコミュニケーションをとるため）

④土がある

ホタルは、自然のバロメーターであり、川の健康観察に最適です。

## 「第十回ＩＬＯＶＥ遠賀川流域住民交流会ｉｎいなつき」大会宣言文

ＩＬＯＶＥ遠賀川の名のもとに今日まで「母なる川」に思いを寄せて早や十七年の月日が流れようとしています。飯塚市を端を発したボランティア団体による清掃活動は様々なボランティア団体の活動を呼び点から線への広がり持つに至りました。当初は各地域に限定された活動も我らの母なる遠賀川流域は、上流域の嘉穂町から下流域の芦屋町まで全国的にもまれな流域連携の環境活動が発展されています。

しかし、遠賀川の自然環境が本来の美しい姿を取り返したとはいえません。いまだに九州で水質汚濁のワースト上位の常連という不名誉な汚名を受け続けております。社会経済システムがもたらす環境負荷は、遠賀川に様々な影を落としています。遠賀川はまさに、私たちの日常生活や行動のあり方に無言で問いかけているのです。

いにしえより遠賀川は私たちに多くの恵みを与えてくれ、自然環境の尊さを教えてくれました。今を生きる私たちはこの遠賀川を子どもから孫へ孫からその子どもへと引き継いでいく義務があります。

近年においては「遠賀川に清流を取り戻そう」とのスローガンを掲げ、流域住民一層の連携強化のため「遠賀川流域住民の会」はＮＰＯ法人の認定を取得しました。また、国土交通省が「第二期水環境緊急行動計画」の対象河川として遠賀川水系を選定したことにより「遠賀川水系清流ルネッサンスⅡ地域協議会」が設立され川の利用、生物の生息、環境の保全、川の周辺環境、住民活動等について総合的な行動計画が立案されています。これはまさに住民と行政のパートナーシップの確立です。しかし、これは始まりの第一歩です。

今回の開催地であります稲築町においては、開催から八年目を迎える「いなつき環境フェスタ」で毎回鮭の稚魚放流を行っております。この催しは、国土交通省をはじめとする行政、遠賀川流域住民の会をはじめとする住民団体、また様々な企業が一体となって行われていますが、平成十三年に鮭が稲築町までそ上してきました。この出来事は、三者のパートナーシップがもたらした小さな小さな成功です。しかし、三者には大きな大きな連帯感を与えてくれました。

このように遠賀川も水環境対策の気運が高まりつつあります。環境づくりには人それぞれの立場に応じた責任と役割があります。あらゆる主体が一体となったときその成果は確実にあらわれ、称賛を得るでしょう。

本日参加いただきました皆様の貴重なご意見を糧に未来を託す子供たちにこの大切な「母なる遠賀川」を守り、引き継いでいくことをここに宣言いたします。

二〇〇四年九月二十六日

第十回「ＩＬＯＶＥ　遠賀川流域住民交流会　ｉｎいなつき」

参加者一同

# ～～源流から中流へそして海へ～～

第二回遠賀川流域児童体験交流会を七月十七日・十八日(土・日)
嘉穂町馬見キャンプ場で開催しました。

主催　遠賀川源流の森づくり推進会議

「未来を担う子ども達にきれいな遠賀川を残したい！」このような思いから源流のある嘉穂町、中流の穂波町、下流の芦屋町の児童が自然豊かな嘉穂町に一同に集い、沢登りやカヌー遊びなどの体験、そして、平成九年から実施している「源流の森づくりによる植樹活動」の目的や意義などの学習を行ないました。

交流会では各小学校で取り組まれている「河川環境」学習の発表を行ない、嘉穂町からは宮野小学校がヤマメのふ化・飼育、ほたるの生息地域、水質検査の結果をマップで作成し、発表しました。

また、足白小学校ではサケのふ化・飼育から放流して稚魚が海から日本海を北上し、ベーリング海を回遊して放流から四年後には遠賀川の水のにおいを嗅いで戻ってくること、しかし、水がきれいでないと帰ってこれないこと、などの記録をパソコンで発表しました。

中流の若菜小学校からは昨年七月十九日の大水害による家屋の浸水や後片付けの状況を発表しました。

下流の芦屋町では上流や中流から流れ出る「ゴミ」の問題でゴミ回収作業に毎年二千万円の費用がかかっていること、漁船のスクリューにゴミが巻きつくなどの被害が出ていることなどの発表がありました。

感受性豊かな子ども達が川や山の環境を考え、流域の子ども達が自由に交流できるような機会をつくることも私たち大人に求められると思います。

カヌー遊び

森づくり学習会

沢登り

ソーメン流し

交流会

水質検査

# ～～遠賀川が彩った川下り大会～～

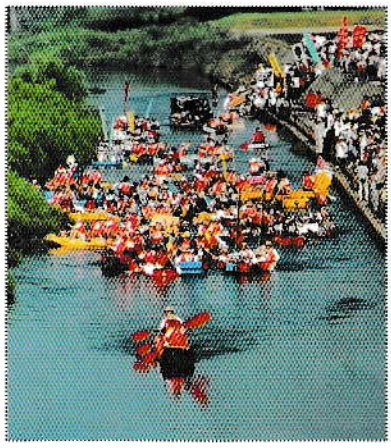
第二十五回遠賀川川下り大会が七月二十五日(日)、飯塚市から北九州市八幡西区までのコースで開催しました。

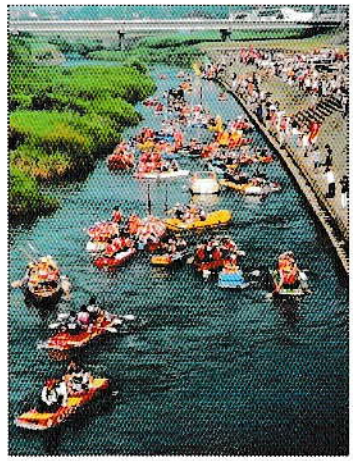
主催　遠賀川川下り大会実行委員会

「筑豊の母なる川をきれいに」との思いで始まった「遠賀川川下り大会」も今年で二十五回を迎えました。手作りのいかだレースとしては全国でももっとも長いコースで、飯塚市から北九州市木屋瀬までの二十三キロをいかだ五十二チーム、船十二チーム、カヌー一チーム、合計六十五チームが猛暑の中を競い合いました。

かつては筑豊炭田の石炭運搬船でにぎわった遠賀川を、参加者の思い思いで作った手作りのいかだが、川を下る風景は勇壮なものです。好天続きで水かさが下がり、浅瀬では川に入って押すチームもあり、途中四か所のせきでは、いかだなどを河原に引き揚げて迂回しながら、苦戦しながらゴールをめざしていました。

いかだ部門では小倉南消防所が二時間五十九分七秒のタイムで大会史上初の連覇を達成しました。おめでとうございます。今年もリタイヤしたチームもありましたがほとんどのチームがゴールを目指してがんばりぬきました。





優勝された皆様おめでとうございます

# 遠賀川の生きものたち

写真提供・・支部写真部　河野三朗氏

## カンムリカイツブリが彦山川で越夏

日本野鳥の会　筑豊支部　松尾節郎

大任町の彦山川で冬鳥のカンムリカイツブリが夏を越すというニュースが添田の後藤直嗣さんの通報で、新聞や会報で筑豊の皆さんに届いた。多分初めてのことでしょう。

潜水艦の潜望鏡が水面すれすれに出ているような感じで泳いでいる。日本のカイツブリでは最大で、冬は腹部や胸から首までが白っぽく、頭に黒いハート型の冠毛があり優雅にみえる。夏羽は多少茶色ぽく頭部や肩から背にかけて色が付く。餌には魚を食する。

一般のカイツブリはニオとも呼ばれ潜水の名人で、古くからもぐりっちょなどと呼ばれて、どこでもだれでも親しまれている。だがカンムリカイツブリは九州では冬期に大川下流域や河口、大きな湖やダムなどで観察されていて、県のレッドデータブックで絶滅危惧II類に登録されている貴重な種である。

今夏は異常な猛暑であったが、野鳥にも影響があったのだろうか？大変珍しい情報で、果たして来年も見られるだろうか？

# 小学生スイスイ快漕

## 九月十九日（日）、飯塚市川島において、NPO遠賀川流域住民の会主催で第一回遠賀川カヌー駅伝大会を開催いたしました。

第一回遠賀川カヌー駅伝大会を九月十九日、飯塚市川島の遠賀川で、小学生や一般でつくる八チームが参加。艇とパドルをタスキ代わりに速さを競った。

昨年は水害で中止。今年も台風十六号のため日取りが延びた。

中州を回る一周五百㍍のコースを一人一周ずつして艇を乗り継いでいった。中継点の岸辺に寄せられずに四苦八苦したり、小学生が見事なパドルさばきで大人を振り切ったり。

このカヌー駅伝大会は「川で遊ぶことで、市民に河川環境を考えるきっかけにしてもらおうと」計画。表彰式の後周辺河川敷の清掃作業を見学者も含めて実施した。

その後全員で豚汁やオニギリで交流会を、楽しい一日を過ごした。

優勝した穂波海洋クラブチーム

スムーズに次の漕者へ

来年はもっと頑張ります・・・

いよいよスタート！　緊張した空気に包まれます

終了後は清掃活動

清掃後の豚汁が最高！交流を行いました

# 第3回・芦屋海岸クリーンキャンペーン

## 八月八日（日）芦屋海岸にてクリーンキャンペーンを開催しました

「遠賀川から流出するゴミで芦屋の海岸は泣いている、きれいな海辺を取り戻そう」と、遠賀川上流から下流の芦屋町までの流域住民百人が集い清掃活動を行った。

開会式では芦屋町長の歓迎の挨拶の後、大雨で最近被害にあった様子や、現在かかえているゴミ問題の状況が報告された。

清掃活動はそれぞれ班毎に分かれ、海の見える風景を楽しみながら海岸のゴミ拾いを行った。

閉会式では、西日本ダイビングクラブのボランティア活動の報告もあわせてあり、ゴミだらけの海の底の様子を報告いただいた。ゴミナンバーワンは「タバコのフィルター」ということにびっくり、タバコのポイ捨てはしないように。

## インフォメーション

ＩＬＯＶＥ遠賀川事業成果公表事業「母なる遠賀川にあなたのやさしさを」

日時　平成１６年１１月２７日(土) 午後１時受付・１時３０分開会
会場　コミュニティーセンター４階研修室
主催　ＩＬＯＶＥ遠賀川実行委員会
基調講演　演題「愛するわたし達の遠賀川」
講師　海野　修司氏（国土交通省京浜河川事務所長）
パネルディスカッション　テーマ「愛するわたし達の遠賀川」
コーディネーター　ＩＬＯＶＥ遠賀川実行委員会　曽根　靖史氏
パネラー　源流の森づくり推進会議　森　裕治氏
ひこさん川夢の会　大久保琢磨氏
筑穂町厚生課　平嶋　徳積氏
宿場木屋瀬街づくりの会　野口　靖彦氏
芦屋町の自然を守る会　妹川　征男氏

いなつき環境フェスタ
日時　平成17年３月13日(日)　10:00~16:00
会場　稲築町スポーツプラザ遠賀川親水公園

遠賀川流域住民の会活動報告会
日時　平成16年12月11日(土)　13:00~
会場　飯塚市のがみ会館

遠賀川流域住民の会　事務局長　植木康太
TEL・FAX　0947-45-0594　メール k.uekil@crocus.ocn.ip
ホームページ　http://onga.sabax.jp/